

＜平成 29 年度 第 1 回理事会 議事録＞

日 時：平成 29 年 5 月 6 日（土）13：00～16：00

場 所：聖路加国際大学本館 5 階 506 教室

出席者：理事；武田利明、渡邊順子、佐伯由香、水戸優子、縄秀志、大久保暢子、藤井徹也、
篠崎恵美子、高橋有里

監事；三上れつ

（順不同、敬称略）

【新役員紹介】

1. 新理事長挨拶
2. 新役員挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1

【報告事項】

1. 庶務報告
 - 自動退会者（3 月 31 日）・・・・・・・・・・・・・資料 2
 - 会員状況（4 月 1 日現在）他・・・・・・・・・・・・・資料 3
2. 委員会報告
 - 1) 編集委員会
 - 2) 研究活動推進委員会・・・・・・・・・・・・・資料 4
 - 3) 技術研究成果検討委員会
 - 4) 広報委員会・・・・・・・・・・・・・資料 5
3. 看護系学会等社会保険連合報告・・・・・・・・・・・・・資料 6
4. 第 16 回学術集会の準備状況・・・・・・・・・・・・・資料 7
5. 第 17 回学術集会の準備状況・・・・・・・・・・・・・資料 8

【検討事項】

1. 学会事務局業務の委託業者の選定について・・・・・・・・・・・・・資料 9
2. 法人化対応策について
3. 学会の特徴の再確認
4. 平成 29 年度委員会活動
 - 1) 研究活動推進委員会・・・・・・・・・・・・・資料 10
 - (1) 第 16 回学術集会における大会賞、卒業研究交流セッション等
 - 2) 編集委員会・・・・・・・・・・・・・資料 11
 - (1) Web 発刊の時期、別刷り代金等
5. 平成 29 年度予算案について・・・・・・・・・・・・・資料 12
6. 川島みどり先生の名誉会員への推薦について・・・・・・・・・・・・・資料 13
7. 入退会審査・・・・・・・・・・・・・資料 14
8. 年間スケジュール・・・・・・・・・・・・・資料 15
9. その他

【新役員紹介】

1. 新理事長挨拶

第6期武田理事長より、本学会の設立の趣旨の確認とともに挨拶があった。

2. 新役員挨拶・・・資料1

第6期理事、監事からそれぞれ挨拶があった。

高橋理事より資料に基づき評議員の報告があった。資料中、川口孝泰評議員の所属について、4月より東京情報大学に異動されたため修正することを確認した。新しい理事、監事、評議員の氏名および所属については、早急に学会ホームページに掲載することを確認した。

【報告事項】

1. 庶務報告

1) 自動退会者・・・資料2

高橋理事より、資料に基づき自動退会者50名について報告があった。

2) 会員状況他・・・資料3

高橋理事より、資料に基づき会員状況について報告があった。平成29年4月1日現在、正会員1,449名、賛助会員5社、名誉会員0名であった。学会誌購読会員については、平成28年度をもって終了したことが併せて報告された。また、賛助会員の日本看護協会出版会の退会手続きが保留となった経緯について大久保理事から説明があり、このまま年会費が納入されなければ年度末に自動退会となるため、武田理事長から改めて日本看護協会出版会に連絡することとなった。

その他として、日本看護系学会協議会社員総会の日程、および日本人間工学会第58回大会への協賛について、報告があった。

2. 委員会報告

1) 編集委員会

佐伯委員長より、Web発刊に伴う様々な変更は新委員会で検討するよう引き継がれたこと、現在編集委員会のメンバーを検討中であることが報告された。武田理事長から委員会メンバーも理事会での承認事項であることについて説明された。

2) 研究活動推進委員会・・・資料4

水戸委員長より、資料に基づき、平成29年度の活動方針、活動計画とスケジュールについて、報告があった。また、副委員長、委員の紹介があり、承認された。例年10月頃に行っている研究助成募集については、「実践現場と連携研究の推進に関する検討」を行った上で、応募要領の見直し等を行っていく予定であることが報告された。

3) 技術研究成果検討委員会

大久保委員長より、別途資料に基づき、第6期活動方針について報告があった。研究グループは、浣腸、移動動作評価、ポジション管理、気持ちよさをもたらす看護ケア、温罨法の5つで平成29年度予算計上していることから、今年度は5グループとし、平成30年度に新しいグループを加えるか検討することが報告された。また、成果の普及促進として、とくにQ&Aやガイドラインの作成と他の学会等への配布の促進、技術学会公認（推奨）の技術の検討を進めていくことが併せて報告された。学会の特徴を出すために重要な活動の一つ、看護技術の診療報酬化に関しては、「診療報酬を目指すチーム」を作

成し、看保連委員と協力しながら複数の技術の診療報酬化を目指していきたいとの話があり、これに対して看保連委員の縄理事から、今まで本委員会の中に入っていた看保連委員を今期は独立するという捉え方でよいかとの確認があった。検討の結果、看保連委員会として新たに立ち上げるのではなく、技術研究成果検討委員会の中に技術研究成果検討チームと看保連チームを作って連携しながら活動していくほうが効率的であるため、そのような組織編成とし、技術研究成果検討チームの副委員長を吉田理事に、看保連チームの副委員長を縄理事とすることで合意した。予算については2つのチームで分けたほうがよいとの意見が出され、委員会内で再度検討することとなった。

4) 広報委員会・・・資料 5

藤井委員長より、資料に基づき広報委員会メンバーについて報告があり、承認された。委員のうち、評議員の箕浦先生に副委員長をお願いすることで合意した。

3. 看護系学会等社会保険連合報告・・・資料 6

大久保理事より、資料に基づき、学会から提出していた【療養病棟 背面開放座位加算】の医療技術提案書に対する看保連からのコメント内容が報告された。これに関して、前看保連委員の水戸理事、今期の委員の縄理事、背面開放座位の開発者である大久保理事の3名で検討した結果、申請内容の2つを統合する新たな提案書を考えていることが報告された。今までの提案書には脳血管のリハビリテーション料を減点できると書いてきたが、新たな提案はリハビリチームに看護師を加えてもらうことで、理学療法士による1日数時間のリハビリを看護師が24時間継続して実践できるというメリットもある。今まで考えてきた看護師単独の技術では難しいことが分かってきたため、チームの中に看護師がいることで効果があがるという内容で書いていく予定である。渡邊副理事長より、平成28年に診療報酬化した排尿自立指導も、医師、看護師、理学療法士の排尿ケアチームで行うものであり、背面解放座位についても同様の内容で申請できるのではないかと意見が出された。ただし、看保連に大幅な変更を認めてもらえるかという点と、看保連からの国への申請に間に合うかとの問題もあるため、今回間に合わなければ平成32年度診療報酬改定に向けての申請になることを確認した。なお、関係学会に記載している日本脳神経看護研究会への連絡については、理事長でなく委員会対応で問題ないことが確認された。

4. 第16回学術集会の準備状況・・・資料 7

高橋理事より、資料に基づき、第16回学術集会の準備状況について報告があった。総会は、10月14日（土）12:00～13:00に開催すること、評議員会は10月13日（金）18:00～開催すること、評議員会の会場は日本赤十字看護大学をお借りすることで合意した。

5. 第17回学術集会の準備状況・・・資料 8

高橋理事より、資料に基づき、第17回学術集会の準備状況について報告があった。

6. その他

縄理事より、4月25日に看保連大会に参加したこと、当日は診療報酬に関する説明はなかったことが報告された。

【検討事項】

1. 学会事務局業務の委託業者の選定について・・・資料 9

武田理事長より、会員管理業務、会計業務、庶務業務、ホームページ管理業務、法人設立業務について、春恒社、毎日学術フォーラム、杏林舎の3社の見積もり書の説明があった。検討の結果、見積もり内容の丁寧さや金額の差等はあるが、これまで部分的に委託している業者をお願いすることでリスクも少なくスムーズに移行ができることも踏まえ、春恒社とすることで合意した。ただし、現在委託している会員管理業務も合わせて再度丁寧な見積もり（契約書）を作成してもらい、理事会（メール会議）にて内容を確認することで合意した。なお、ホームページ管理業務については、今年度は現在の業者（デジタルダイブ）に引き続きお願いし、時期をみて春恒社に変更するか検討していくこととなった。また、業者委託については、理事会承認であり、総会では報告することを確認した。

2. 法人化対応策について

平成 30 年度の法人化を目指して準備を進めることを確認した。そのために委託予定の春恒社のこれまでの実績を確認することとなった。総会では法人化を進めていることを報告し、委託業者名までの説明は必要ないことを確認した。

3. 学会の特徴の再確認

武田理事長より、学会誌の Web 発刊に伴い非会員も学会誌掲載論文が見られるようになったことから、会員のメリットや学会の特徴について再確認する必要があるのではないかと問題提起があった。複数の理事から、実践家の発表や参加が少なくなっていることが残念で、もっと実践家に関われるような学会にしたい、実践家を大事にしたい等の意見が出された。これに対し、実践家に取り組みを紹介してもらう機会があるとよいとの話になり、論文の執筆は難しくてもニュースレター等で発信してもらうことが可能なのではとの意見が出され、ニュースレターに臨床の活動紹介コーナーを作ること等が提案され藤井理事(広報委員長)が検討することとなった。

また、渡邊副理事長からは、学術集会において交流セッションでなくワークショップがあるとよいのではとの提案があった。これに対し、水戸理事より、ワークショップや研修会については、技術成果検討委員会が別途開催することも検討していることが報告された。

また、実践家が取り組みを紹介でき研究者とつながるような企画が学術集会にあると良いのではないかの意見があり、学術集会の企画に理事会が関与していく提案も出された。

ニュースレターについては、実践家がホームページを閲覧する習慣がないため紙媒体としての情報発信が必要と考えられるため、今年度はニュースレターのみ郵送していくことを再確認した。

水戸理事からは、技術活動推進委員会として、研究成果の動画をホームページにリンクできたらと考えていることも併せて報告された。ホームページの活用としては、渡邊副理事長から学術集会で開催されたワークショップなどもアップしてもよいのではないかの意見が出され、藤井理事(広報委員長)が検討することとなった。

また、水戸理事より、ニュースレターへの掲載内容の例として、臨床検査技師会から本学会に依頼された移動看護技術の講演など、本学会への依頼活動もよい宣伝になるのではないかの紹介があった。

以上のような様々な意見、提案が出され、まず、学会員が発表だけでなくメリットを感じられるようなニュースレターの充実を図っていくことで合意した。

4. 平成 29 年度委員会活動

1) 研究活動推進委員会・・・資料 10

水戸理事より、資料に基づき、第 16 回学術集会における大会賞、卒業研究交流セッション等の依頼文、様式について説明があった。検討の結果、大会賞として評価点数が高いのに学会誌掲載の座長推薦欄にチェックがなく一致しないことが以前から課題であったため、チェック欄は不要ではないかとの意見があり、削除することとなった。それに伴い、今年度は大会賞として点数が高かった演題の発表者にそのまま学会誌への論文投稿について案内していくことを確認した。

2) 編集委員会・・・資料 11

高橋理事より、春恒社から 16 巻から号をなくすことを前提に問い合わせがあったことが報告された。これに関して、編集委員が随時発刊の作業を行うのは大変であるが、業者委託するならば可能であるため、春恒社に委託業務内容を確認した上で、委員会の中で検討してもらうこととなった。

また、別刷り代金の値上がりについては、春恒社にその内訳を確認することとなった。

5. 平成 29 年度予算案について・・・資料 12

高橋理事より、平成 28 年度収支決算予定、および昨年度総会で承認された平成 29 年度予算案について説明があった。今後業務委託をするため、予算案は修正する必要があると予測され、次回の理事会で修正予算案を検討することで合意した。

各委員会予算については、技術検討成果研究委員会は看保連チームの予算について再度検討してもらうが、それ以外の委員会については、現段階では予算案の通りとし、委員会名で作成していただくうち銀行口座に振り込むことで合意した。

6. 川島みどり先生の名誉会員への推薦について・・・資料 13

武田理事長より、資料に基づき、名誉会員規定および様式について説明があった。渡邊副理事長に推薦者になっていただき次回理事会までに、川島先生の意向を伺った後に資料を作成してもらい、今年度総会で承認を得ることで合意した。

7. 入退会審査・・・資料 14

高橋理事より、資料に基づき 3 月、4 月分の入会申込者 26 件、退会届提出者 18 件について説明があり、入会申込書、退会届の回覧、検討の結果、全員承認された。

8. 年間スケジュール・・・資料 15

武田理事長より、資料に基づき説明があった。次回理事会は、8 月 26 日（土）13:00～聖路加国際大学で開催することとなった。

高橋理事より、資料中、評議員会の時間は 18:00～、総会は 10 月 14 日（土）12:00 と本会で決めたことの再確認があった。

9. その他

武田理事長より、理事会は理事の過半数をもって成立することが会則にあり、本日の理事会は、吉田理事のみ都合により欠席されたが、成立したことの確認があった。